

DEBUT 首長

佐賀県武雄市長 小松 政氏



こまつ・ただし 1976年京都市生まれ。2001年東大法卒、総務省へ。大分県、福岡市、内閣官房などに出向。10年武雄市役所に。14年秘書課長。知事選出馬のため樋渡・前市長辞職に伴う15年1月の市長選で初当選。蒲島・熊本県知事は大学時代の恩師。38歳。

前進へ「市民との対話」基本 子育て支援や所得増に重点

武雄市 佐賀県西部の隣接1市2町が合併し、2006年に発足。人口は約5万人。開湯1300年の武雄温泉があり、辰野金吾が設計した楼門は創建100年に。「TSUTAYA」に運営委託した図書館が注目される。

——改革を推し進めた樋渡啓祐・前市長から市政を引き継いだ。

就任後、一人でも多くの市民に私がどういう人間で何を考えているかを知ってもらいたいと思ひ、現場の話を聞くため時間を割いてきた。市政をさらに前進させるため、市民や議員、職員と対話や議論を重ねたい。

(改革を進める) 姿勢は前の市長と同じだ。一番大事なのは市民の暮らしを良くすることで、そこに目的がある。それを最も実現できる主体は誰かを考えたとき、それが行政かもしれないし、民間かもしれないし、指定管理者制度などで行政と民間が組む形かもしれない。市民福祉を維持向上する手段として、官民が組む事例が多くなっているということだ。

——小松市政の独自色をどう打ち出していくか。

大きな方向性として3つある。ひとつは教育改革と子育て支援だ。私自身が5歳と3歳の娘を持つ親であり、一市民として感じる課題もある。教育の充実、子育て支援こそが地域経済の活性化につながると考える。武雄で生まれた子どもを地域で育て、両親が共働きしやすい環境を整えるなど、世帯の所得を増やす施策を示したい。人が住めば、域内の経済が回っていく。

次に生きがいや健康づくりだ。仕事や学習の機会を設けるなど、元気で経験が豊かな高齢者の暮らしを充実させ、健康寿命を延ばしたい。そしてにぎわいの創出や活力の向上だ。市にあるものを生かし、持続可能なまちづくりを進める。コンパクトシティのように街の機能を中心部に集めて効率性を追求するよりも、周辺部の活性化を図りたい。自然や文化などの魅力をこれまでにない発想で引き出す。

——前市長が力を入れた教育改革はどう進めていくか。

2015年度から市内2小学校で民間学習塾「花まる学習会」と連携した教育を始める。市立

中学校にもタブレット(多機能携帯端末)を配り、すべての小中学生がそれを使って学習できるようにする。人数を倍増した新しい教育委員会とともに、不転の決意で教育改革を進める。

——地域創生にはどう取り組むか。

恩師の蒲島郁夫・熊本県知事は「所得、安全・安心、誇り、夢に資する政策をとれば、結果として市民の幸福量が上がる」と説く。前市長でしか成し得なかったと思うが、武雄市民の誇りはかなり上がった。私は中でも市民の所得を上げることを考えたい。非常に難しいが、所得が伸びれば田舎であっても暮らしていける。今後5年間の政策目標や具体策を盛り込んだ総合戦略を今秋までにまとめる。

「自分たちが住んでいる市の未来は自分たちでつくる」との声を大事にして、アイデアを取り入れ、迅速に実行したい。

(聞き手は

佐賀支局長 田中 浩司)